令和元年度　学校評価総括評価表

徳島県立池田高等学校三好校　１－Ｉ　（教務課）

自　己　評　価						学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　価			学校関係者の意見	今後の改善方策
学力の育成	（全校レベル） （１）規律ある授業の実施に努め学習態度と意欲の向上に努める （下位組織レベル） （１）基礎学力の向上を行う （２）教科指導の充実とレベルアップを行う	評価指標 （１）生徒の授業満足度調査　80%以上 （２）授業実施時間数の状況調査　１単位27時間以上 （３）生徒の成績状況調査　年2回以上 （４）欠席率　2%以内 （５）生徒面談回数　1人3回以上 （６）計画的な職員研修の実施状況 研究授業　2回以上 授業力向上職員研修会　1回以上 教員間の参観授業　1時間以上 活動計画 （１）-1成績不振者に対するきめ細かな指導に努める。 （１）-2追試・補講を実施して強力に指導を行う。 （２）授業時間を集計し授業時間の確保に努める。 （３）定期考査及び課題テストを実施して学力の実態把握を行う。 （４）月末に各ホームルームごとに欠席率を集計し，指導を行う。 （５）生徒及び保護者とホームルーム担任との面談を実施し，家庭との連携を密にする。 （６）-1年間指導計画を作成し，効果的な教育内容の構築を図る。 （６）-2教職員研修計画を作成し，指導力の向上を図る。	評価指標の達成度 （１）生徒の授業満足度調査（9月）85.4%（満足・おおむね満足） （２）授業実施時間数の状況調査　１単位平均　時間 （３）生徒の成績状況調査　年３回 （４）欠席率　5.2%(4月～2月) （５）生徒面談回数　1人3回以上（面談週間，三者面談） （６）職員研修の実施状況 研究授業　1回(9月) 授業力向上職員研修会　0回 教員間の参観授業　1人2時間以上 （授業参観週間:1学期･2学期） 活動計画の実施状況 （１）-1　放課後や長期休業を利用し，個別指導を中心に行った。 （１）-2　追考査，補講は計画的に実施した。 （２）　出張，学校行事を精選し，授業時数の確保に努めた。 （３）　定期考査の他，4･9･1月に実力テストを実施した。 （４）　欠席率を集計し，全校集会で生徒へ注意喚起を行った。 （５）　各学期当初に面談週間を設定した。長期休業中は必要に応じて三者面談を実施した。 （６）-1　評価規準を含んだ年間指導計画を作成し，計画的に指導を行った。 （６）-2　研究授業は1回実施したが，授業力向上に関する職員研修会は実施できなかった。授業参観週間を6月･11月に各2週間設定した。	評定 A A C A B	総合評価 B （所見） 教員数減で授業に支障が出ることもあったが，おおむね計画通り実施できた。「学校生活の基本は授業である」ということを，全校集会等で事あるごとに話をしてきたが，学習に対して積極的に取り組む生徒と，そうでない生徒との2極化が進んでおり，その態度が学習成果に直結している。授業は全体的に落ち着いた雰囲気の中で実施できている。実習にも積極的に取り組む姿勢が多く見られる。しかし，まだまだ取り組みの甘い生徒もおり，残念ながら十分とは言えない。 授業力向上を目指して，授業参観週間を設けて，教員間で意見交換を行うことができた。また，ICTを効果的に取り入れた授業も増え，授業力向上が図られている。	○欠席者の減少に向けて努力して頂きたい。 ○義務教育で不登校の生徒も在籍しているが，気長く指導し，将来に繋げる指導をしてほしい。 ○授業参観週間は，指標を設定してほしい。(何時間以上) ○生徒数が少ないこともあるが，個別指導が徹底しているので良いと思う。	○基礎学力については，まだまだ十分ではない。これからも計画的，継続的な指導が必要である。特に，個別指導の効果は大きく，教科担任・ホームルーム担任とさらに連携をとることにより効果的な指導を進めていきたい。 ○長期欠席の生徒には，担任と保護者の連携の他，養護教諭及びスクールカウンセラー，中学校，関係機関との連携を図り，正しい生徒理解と指導に心がけたい。 ○授業力向上に向け，研究授業や職員研修会だけに頼ることなく，普段の中で情報の共有，伝達等が行えるような工夫をしていきたい。

【備考　総合評価における「評定」の基準】Ａ：十分達成できた。　Ｂ：概ね達成できた。　Ｃ：達成できなかった。

令和元年度　学校評価総括評価表

徳島県立池田高等学校三好校　２－Ⅰ・Ⅱ　（生徒指導課）

自　己　評　価						学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　価			学校関係者の意見	今後の改善方策
生活力の育成	（全校レベル） （１）基本的な生活習慣の確立を図る。 （２）生命尊重の意識の高揚と交通事故の撲滅を図る。 （下位組織レベル） （１）保護者との連携を密にし，相互理解の上で指導の充実を図る。 （２）遅刻・欠席指導の徹底を図る。 （３）身だしなみ指導の徹底を図る。 （４）登下校指導を行う。 （５）交通安全指導の徹底を図る。	評価指標 （１）家庭訪問実施回数　50回未満 （２）無断(理由無)遅刻者率　0.5% （３）身だしなみ指導者率　10% （４）車両定期点検の実施回数　5回以上 （５）交通事故加害者数　0人 （６）いじめ問題件数　0件 活動計画 (1)修学困難生への家庭訪問を実施する。 (2)-1遅刻カードを使い確実に遅刻者を指導する。 (2)-2無断遅刻・無断欠席数調査を月末集計し，多い者への改善指導を徹底する。 (3)毎月初めに頭髪・服装等身だしなみ検査を実施して指導を徹底する。 (4)車両登録をさせ，学期初めと学期終わりに安全点検と学期毎に集会を行い交通事故を未然に防ぐ。 (5)-1自転車，バイクを利用して通学する生徒に対する実技指導を行う。 (5)-2登下校指導計画を作成し指導を行う。 （あいさつ，遅刻，服装） (5)-3教職員一斉による通学路の危険箇所における交通安全指導を行う。 (6)-1いじめ問題の早期発見を行う。 （アンケート調査の実施） (6)-2いじめ問題の早期解決を行う。 （事後指導の確認）	評価指標の達成度 （１）家庭訪問実施回数　41回 （２）無断(理由無)遅刻者率　0.2% （３）身だしなみ指導者率　13% （４）車両定期点検の実施回数　4回 （５）交通事故加害者数　0人 （６）いじめ問題件数　0件 活動計画の実施状況 (1)定期の家庭訪問以外に，学校生活の中での問題行動等で家庭訪問をし，家庭との連携を深めることができた。 (2)遅刻カードを使い確実に遅刻者を指導することができた。 (3)毎月初めに身だしなみ検査を実施した。朝のＳＨＲや授業前に身だしなみを整える習慣がついた。 (4)車両登録・安全点検を専門業者立ち会いの下年間２回，交通安全委員が毎学期１回実施した。全校集会では交通安全に関する注意を行った。 (5)-1交通安全講話の後，自転車と原付自転車の実技指導を行った。また，３年生には自動車安全運転講習会を行った。 (5)-2指導計画により挨拶の励行及び身だしなみ指導ができた。 (5)-3通学路での交通指導と，ＪＲ駅での乗車指導を行いマナーの向上を図った。 (6)-1毎学期アンケート調査を行った。 (6)-2早急な対応ができ本人及び保護者に理解を得ることができ早期解決できた。	評定 A A B B A A	総合評価 B （所見） 生徒指導による家庭訪問の回数が減り，生徒も落ち着いた学校生活を送ることができているように思える。２年生には遅刻の多い生徒がいるが保護者の協力と，本人の意識改革を得るよう働きかけている。 身だしなみ指導では，同じ生徒が繰り返し指導を受けることが多く，頭髪の改善指導を毎回受けることもあるが，多くは靴下や，ベルトに関する違反。 交通安全・列車の乗降マナーなどには交通講話や登下校指導などにより，マナーの向上が見られる。 いじめに関しては，アンケートによる調査を活用し，言葉のすれ違いや，ＳＮＳなどを使った言葉のやりとりでの勘違いなどで友人関係がうまくいかない生徒もいるが，担任など関係職員が入り早期解決ができている。	○今後も継続した指導をお願いしたい。 ○無断遅刻者が少ないのは，教師と生徒の信頼関係ができている事だと思う。 ○身だしなみについては，継続指導の効果が大きい。 ○生徒数が少なくなっているが，目の行き届いた指導ができている。	○基本的生活習慣が大切だと伝えることが必要なので，本年度以降も継続して指導していきたい。 ○ＳＮＳの利用についていじめなどにもつながるので，使用方法などを講演会や日常生活でも指導していきたい。 ○本校の地域性を考えると，バイクや自転車通学生だけでなく，汽車通生の学校までの通学路にも十分気をつけさせる必要がある。今後の指導内容にも入れていきたい。

【備考　総合評価における「評定」の基準】Ａ：十分達成できた。　Ｂ：概ね達成できた。　Ｃ：達成できなかった。

令和元年度　学校評価総括評価表

徳島県立池田高等学校三好校　２－Ｘ　（保健厚生課）

自　己　評　価						学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　価			学校関係者の意見	今後の改善方策
生活力の育成	（全校レベル） （１）生徒一人一人が健康で安全な学校生活をおくる保健厚生への取組の充実を図る。 （下位組織レベル） （１）個々の健康管理を支援する。 （２）健康教育の充実に努める。 （３）性に関する指導を推進する。	評価指標 （１）保健関係ホームルーム活動　各学年・年2回以上 （２）個々の健康管理 ①健康状態の把握　80%以上 ②疾病やけがの手当等の理解度　80%以上 （３）性に関する指導の理解度　90%以上 （４）救命救急法等の職員研修受講率　100% （５）奨学金案内　年2回以上 活動計画 （１）健康教育ホームルーム活動，性に関するホームルーム活動を計画的に実施する。 （２）生徒の健康課題を把握し，保健指導の充実を図る。 （３）各学年において系統的な性に関する指導を実施するため，年間計画を策定し，関連する各教科と連携を図る。 （４）救命救急法等の研修を実施する。 ⑴～⑷学校保健計画・学校安全計画を作成し，計画的な指導を行う。 （５）奨学金の効果的な運用を行う。	評価指標の達成度 （１）保健関係ホームルーム活動　２回実施（うち全校生徒対象１回含む） （２）個々の健康管理 ①健康状態の把握　89.4% ②疾病やケガの手当等の理解度　94.0% （３）性に関する指導の理解度　97.4% （４）救命救急法等の職員研修受講率　教諭受講率76.9%　常勤教職員受講率60.0% （５）奨学金案内　教室掲示　２種類 活動計画の実施状況 （１）健康教育ホームルーム活動は，年間行事計画に沿って，１年生「ＳＳＴ」，２年生「食事・生活習慣」，３年生「生涯にわたる健康」について実施した。性に関するホームルーム活動は，１年生に「デートＤＶ防止セミナー」，全学年に「性教育講演会」を実施した。 （２）三者面談の際，各ホームルーム担任から健康診断結果通知を行った。家庭との共通理解を図ることができた。保健室来室者へは，再発防止や適切な対処方法が習得できるよう，生徒の理解度に応じた指導を行った。 （３）学年や各教科と連携を図り，性に関する指導年間計画を策定した。 （４）教職員対象として救命講習を１回開催した。消防署員を講師としてシミュレーション実習を行い，知識の更新と技術向上につながった。 （１）～（４）年度当初に学校保健計画と学校安全計画を策定し，全教職員で共通理解を図るとともに，計画的かつ継続的な指導を行っている。 （５）２種類の奨学金について教室掲示を行い，その他の奨学金については，該当者に随時案内した。進学者１件，在学者４件申請した。	評定 A A A B B	総合評価 B 評価指標関連については概ね達成できた。 特に疾病やケガの手当等の理解度と性に関する指導の理解度は，昨年度と比べて高くなっている。しかし，理解度が向上している一方で，行動には結びついていない生徒もいる。正しい知識を習得した後，実践につなげるための指導を継続して行う必要がある。 また，救命講習では，今年度シミュレーション実習を取り入れ，より実践に近い内容となった。	○今後も継続した指導をお願いしたい。 ○健康診断結果を家庭に通知し，共通理解が図れているいるようだが，通院等により改善を図るまで徹底できれば良い。	○保健教育では，知識だけでなく実践力を養う指導が必要である。健康診断結果の活用などを含め，生徒の実態に合わせたテーマを設定し，継続指導していきたい。 ○救命講習では，受講できなかった教職員へ伝達講習を実施するなど，誰もがいつでも対応できる体制を整えたい。また，シミュレーション実習も教職員のニーズに応じた内容を取り入れ，さらなる充実を図りたい。

【備考　総合評価における「評定」の基準】Ａ：十分達成できた。　Ｂ：概ね達成できた。　Ｃ：達成できなかった。

令和元年度　学校評価総括評価表

徳島県立池田高等学校三好校　２－Ⅲ・Ⅳ(保健厚生課・特別支援)

自　己　評　価						学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　価			学校関係者の意見	今後の改善方策
生活力 ソーシャルスキルの育成	(全校レベル) (１)教育相談活動の充実と生徒支援に努める (２)生徒一人一人を理解し，個々の生徒のニーズに応じた支援を進める (下位組織レベル) (１)教育相談体制（特別支援を含む）の充実を図る。 (２)生徒理解を進めるために各種検査を効果的に実施する。 (３)特別支援教育職員研修の充実を図る。	評価指標 (１)教育相談体制の充実 教育相談日を設けカウンセリングを行う。　30日（回） (２)各種検査（教研式高校知能検査・学級満足度調査ＱＵ）による生徒理解（各学年） (３)コグトレ実施状況 年50日以上 (４)職員研修における職員の満足度 アンケートで2/3以上が満足 活動計画 (１)次のことに配慮した相談を実施 ①スクールカウンセラー・教職員への親しみやすさ ②スクールカウンセラー・教職員との信頼関係 ③スクールカウンセラー・教職員との相談の満足 (２)各種検査を実施し生徒の困難さ・問題を把握し，問題解決に取り組む。 (３)コグトレを実施し，学習の基盤である認知機能の強化をめざす。 (４)職員研修を１学期・２学期に実施する。	評価指標の達成度 (１)教育相談体制の充実 教育相談日（木曜日）を設けカウンセリングを行った。　のべ３８５回 (２)各種検査（教研式高校知能検査・学級満足度調査ＱＵ）を実施し，生徒理解につなげた。 (３)コグトレ（認知機能向上トレーニング）を８５日実施した。 (４)職員研修における職員の満足を聞き取ったが，概ね満足という感想だった。 活動計画の実施状況 (１)カウンセリング相談 スクールカウンセラー・教職員がそれぞれの立場や観点から生徒個々へのアプローチを行うことで，生徒との信頼関係を構築できた。教育相談は内容により継続的に行う必要があるため，年度末での評価は難しい。 (２)２年間継続して行っている「学級満足度調査ＱＵによる生徒理解」は経年での変化を把握できるため有効である。 (３)コグトレを全学年を対象に実施した。生徒は思った以上に前向きに取り組んでいる。 (４)職員研修を１学期・２学期に実施した。１学期は発達障がいの概論について，２学期はポジティブ行動の研修と生徒の実態把握について研修を行った。	評定 A B A B	総合評価 B (所見) 家庭や学校生活の悩みを誰にも言えずに抱えている生徒が次第にカウンセリングに来るようになった。 また，三好校の職員は長年の経験から生徒たちに粘り強く対応する力を身につけてきているので，とても心強い。 学び方やコミュニケーションの取り方に苦労している生徒を適切な進路決定につなげていくという目標はとても困難であるが，努力を続けてくれると信じている。就労支援センター博愛との連携をさらに緊密にしていくことが求められる。	○今後も継続した指導をお願いしたい。 ○少ない教員数ながら生徒と信頼関係を深め，生徒は有意義な学校生活をおくっていることが伺える。 ○教育相談体制は充実しているように思う。延べ385回は素晴らしい。 ○教員間の共通理解で進めてほしい。	○カウンセリングが定着し，カウンセラーとの信頼関係も深まったため次年度もこの体勢を継続することが望まれる。 ○校内研修の内容，企画に工夫が必要である。 ○本校には様々な家庭環境や健康上の問題を抱える生徒も在籍している。その生徒たちが安心して学校生活を送るために，共通理解を図る必要がある。 ○コグトレの効果を計るために教研式高校知能検査を１～２年生に実施していきたい。

【備考　総合評価における「評定」の基準】Ａ：十分達成できた。　Ｂ：概ね達成できた。　Ｃ：達成できなかった

令和元年度　学校評価総括評価表

徳島県立池田高等学校三好校　２－Ⅶ　（特別活動課）

自　己　評　価						学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　価			学校関係者の意見	今後の改善方策
生活力の育成	（全校レベル） （１）特別教育活動の充実を図る （下位組織レベル） （１）ホームルーム活動の活発化を図る （２）各種専門委員会活動の推進を図る （３）生徒会活動・部活動の活性化を図る	評価指標 （１）ホームルーム活動満足度 80%以上 （２）生徒会の活動状況 学校行事の満足度 90%以上 （３）各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 6回以上 （４）部活動の加入状況　80%以上 活動計画 (1)生徒の実態に合わせて授業を展開し　よりよい人間関係づくりに努める。 (2)各種専門委員会の活動の充実に努める。 (3)-1生徒会活動の活性化を図り活動計画を作成し充実に努める。 (3)-2前日祭実行委員会の活動の活性化を図り充実に努める。 (4)部活動の充実に取り組む。	評価指標の達成度 （１）ホームルーム活動満足度 88% （２）生徒会の活動状況 学校行事の満足度 91% （３）各種専門委員会の活動状況 6以上14%　4以上38%　3以下48% （４）部活動の加入状況　60% 活動計画の実施状況 (1) より良い人間関係づくりを促すために、話し合い活動等を活用した授業を展開することができた。 (2) 計3回の専門委員会を行い、各々の役割に応じた活動に取り組んだ。 (3)-1 生徒会活動の年間計画を作成し生徒会活動に活かすことができた。 (3)−2 各学年から前日祭実行委員を集めることで、全学年のニーズに合わせて活動を考えることができた。 (4) 教員、上級生から積極的に勧誘したが、入部率の向上へはつながらなかった。入部しない理由については、アンケート調査を行った。	評定 A A C C	総合評価 B （所見） 生徒を主体として学校行事を行う事によって、学校への所属感や連帯感を深め、協力してより良い学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的態度を育てることができた。 また、昨年度のアンケート結果を参考に改善したことで学校行事の満足度を9割以上を達成できた。 また、ＨＲ活動を通して学年・ＨＲ単位での活動、専門委員会で異年齢集団による交流を促し、望ましい人間関係を形成する態度を育てることができた。 生徒一人一人が考え、協調し、社会性を高めることのできる生徒会活動、学校行事を目指したい。	○今後も継続した指導をお願いしたい。 ○生徒数が少なく，部活動は難しい状況にある。 ○部活動等に参加していない生徒の実態調査をしてみてはどうか。	集団や社会の一員としてより良い生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的態度を育てるために、生徒全員に焦点を当てて、特別活動を行いたい。 そのための方策として①アンケート等で生徒の意見をすくい上げ、生徒のニーズに合わせた行事を展開②部活動アンケートをもとに、部活動の入部率を高める取組を検討―したい。 上記の取組を遂行することで、生徒の心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、自己を生かす能力の向上へつなげていくことが重要である。

【備考　総合評価における「評定」の基準】Ａ：十分達成できた。　Ｂ：概ね達成できた。　Ｃ：達成できなかった。

令和元年度　学校評価総括評価表

徳島県立池田高等学校三好校　２－Ⅷ・Ⅸ　（環境防災課）

自　己　評　価						学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　価			学校関係者の意見	今後の改善方策
生活力の育成	(全校レベル) （１）環境教育の推進を図るために，三好校エコスクールの推進と新学校版環境ＩＳＯの推進を実践する。 （２）学校防災教育の推進を図るとともに，地域防災との連携を図る。 (下位組織レベル) （１）校内外の美化活動を推進する。 （２）省エネルギー・リサイクル運動を推進する。 （３）防災学習の充実 （４）防災訓練の充実 （５）教職員生徒の防災意識向上及び防災リーダー育成を行う。 （６）学校安全計画の作成と学校安全ついて啓発・実践を行う。	評価指標 （１）新学校版環境ＩＳＯの総合評価レベル１５以上。 ①美化活動・エコ活動の達成度 90% ②節電昨年度比　10%減少 （２）学校防災の実践活動における実施時数　6時間以上 ①ＨＲにおける防災・救急救命学習時間の実施　100% ②防災避難訓練実施 校内1回，地域との連携活動１回以上 活動計画 （１） ①-1校内外の清掃美化実践をする。 ①-2施設設備の補修等即対応する。 ①-3ゴミの分別100%を目指す。 ②-1エコキャップの回収と活用を実践する ②-2毎月の電気使用量についてデータを配布する。 ②-3こまめな消灯の徹底など啓発活動を行う。 （２） ①-1防災学習をして意識を高める。 ①-2救急救命の適切な指導をする。 ②-1有事の際に対応できる防災避難訓練を計画。 ②-2災害発生時の生徒・職員の生命・身体の安全を確保を目的とした防災研修を実施する。 ②-3地域との連携を図り，合同訓練の実施を計画・実践する。	評価指標の達成度 ①年間で８回実施 ②４月～１２月集計で４か月が達成 ①予定通り実施 ②校内１回　地域２回　実施 活動計画の実施状況 （１） ①校内外の清掃美化活動は実践できた。 ①施設の補修・環境整備も対応できた。 ①概ね分別できている。 ①回収し，外部団体への寄付を実践できた。 ②データの記録はできたが、周知はできなかった。 ②実践できた。 （２） ①無線資格３名、防災士１名合格 ①ＡＥＤや心肺蘇生について指導できた。 ②地震２回や火災１回について訓練を実施した。 ②火災避難訓練で消防署と連携して行った。 ②三好市防災会の活動に７名の生徒が参加した。	評定 A B A A	総合評価 B （所見） 電気使用状況の啓発以外は概ね達成できた。ゴミの分別は最終処分時に分別を徹底している。校内の環境美化についても概ねできており，美しい学校環境が保たれている。 防災活動については防災士や無線取得への積極的な取組を希望する生徒は減少したが，少人数の生徒が挑戦してくれたことで，概ね達成できた。	○今後も継続した指導をお願いしたい。 ○いつ学校に立ち寄っても，きれいに清掃されており，気持ちが良い。 ○毎年10%の節電は，これ以上難しいのではないか。 ○三好市防災会への参加は継続してほしい。	これまでの実践を継続し，環境美化と防災について地域から信頼されるような活動を行っていきたい。

【備考　総合評価における「評定」の基準】Ａ：十分達成できた。　Ｂ：概ね達成できた。　Ｃ：達成できなかった。

令和元年度　学校評価総括評価表

徳島県立池田高等学校三好校　３－Ｉ　（進路指導課）

自　己　評　価						学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　価			学校関係者の意見	今後の改善方策
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
進路・キャリア教育	（全校レベル） （１）一人一人の生徒の適性を踏まえ，能力を生かした進路の実現のための進路指導・キャリア教育を推進する。 （下位組織レベル） （１）生徒の進路希望の把握と適性・能力を加味した進路意識の高揚に努める。 （２）事業所・進学先・ハローワーク等との連携に努める。 （３）生徒の学力の実態把握に努め，学力向上を推進する。	（１）３年生進路内定率 100% （２）進路補習への参加率 90%以上 （３）マナトレ実施状況 ①実施回数 20回以上 ②７級合格率 50%以上 （４）校内漢字検定実施状況 ①実施回数　10回以上 ②5級以上合格率　70%以上 （５）効果的な進路講演会及び進路ガイダンスの実施　各学年　年2回 （６）「高校のための生学びの基礎診断」の活用　　1年生3科目	（１）３年生進路内定率　94% （２）進路補習への参加率 89% （３）マナトレ実施状況 ①実施回数　18回 ②７級合格率　43% （４）漢字検定実施状況調査 ①実施回数　8回 ②5級以上　59% （５）効果的な進路講演会及び進路ガイダンスの実施 3年2回，2年3回，1年2回 （６）「高校のための生学びの基礎診断」の活用 1年生3科目　6月実施	B B B C A B	B 早い段階から目標を定め，準備ができた生徒は，希望のところに進路決定することができた。目標に向けて，毎日努力する生徒の姿を見ることができた。反面，目の前に迫らないと動き出せない生徒も多くおり，決定までに時間がかかる生徒も多かった。早め早めの対応が必要である。 また，基礎学力の定着の方策として，マナトレや漢字検定の効果的な学習方法，学びの基礎診断の活用法等を検討する必要がある。 全体を通して，進路指導課を中心とし，学年に応じて系統立てた進路計画を展開する必要があると考えられる。	○今後も継続した指導をお願いしたい。 ○基礎学力の向上に継続して取り組んでほしい。これにつきる。	○３年計画で，系統立てた進路指導をしていく必要がある。各学年と協力をし，就職希望生が多いので，職業ガイダンスを増やすなど，ホームルーム活動やガイダンス・講演会・職場見学等充実を図っていきたい。 ○マナトレ(数)や漢字検定の方法も改善し，基礎学力の向上に努めたい。 ○学びの基礎診断の結果や次年度から実施されるキャリアパスポート等の活用，進路指導の方法について全教員で共通理解を図りながら，教職員・生徒がともに目標実現に向かって進んでいけるよう組織作りをしていきたい。
		活動計画	活動計画の実施状況				
		（１）-1従来からの関係事業所同様，新規事業所への開拓にも力を入れる。 （１）-2定期的に進路希望調査を実施する。 （２）　基礎学力の向上と進路に対する意識を高める。 （３）　数学の学び直しを実施して，計算力の養成に努める。 （４）　漢字検定を実施して，読み書き力の養成に努める。 （５）　適切な時期に適切な話をしていただける講師を探し，生徒の心に訴えるような講演会・ガイダンスを企画する。 （６）　「高校生のための学びの基礎診断」を活用し，学力向上と学習意欲の向上につなげる。	（１）-1　担任・進路課で定期的に面談を行い生徒理解と指導に努めた。新規事業所内定2人。 （１）-2　3年生は随時。1･2年生は2回実施した。 （２）積極的に参加できた生徒は、集中力をきらさず，最後まで進路決定に向け取り組むことができた。 （３）各ﾎｰﾑﾙｰﾑに２～３名教員を割当て，特設の時間(8:35～9:00)に18回実施した。 （４）ｼｮｰﾄﾎｰﾑﾙｰﾑや授業等を活用して全校的に取り組んだ。(年8回実施) （５）学校だけでなく，企業ガイダンス等各学年に応じて，充実した内容の講演会やガイダンスが実施できた。 （６）6月に1年生で3科目実施。				

【備考　総合評価における「評定」の基準】Ａ：十分達成できた。　Ｂ：概ね達成できた。　Ｃ：今後の努力が必要。

令和元年度　学校評価総括評価表

徳島県立池田高等学校三好校　３－Ⅱ・Ⅲ　（農業科）

自己評価						学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			学校関係者の意見	今後の改善方策
キャリア教育	（全校レベル） （１）特色ある農業教育の推進を図る。 （２）地域産業の担い手育成に関する地域連携を推進する。 （下位組織レベル） ①地域連携の推進を図る ②教職員の資質向上を図る ③資格取得の推進を図る ④農業クラブ活動の活性化を図る	評価指標 （１）課題研究成果の充実（3研究以上） （２）農業研修会への参加 年間３回以上 （３）学校開放講座参加者の満足度 100% （４）農業技術検定合格率 60%以上 （５）学校農業クラブでの成果 県予選３種目以上入賞 （６）地域・異校種間と連携した取組 年間50回以上 （７）専門授業に対する生徒の満足度 90%以上 活動計画 （１）-1農場生産物を活用した６次産業化を推進する （１）-2地域貢献からエシカル消費を推進する （２）教職員の資質向上を目的とした校外研修等に参加する （３）学校開放講座の実施により，地域連携を推進する （４）農業技術検定に対応した補習体制を構築する （５）生徒の意識の高揚を図り，学校農業クラブ活動を活性化する （６）先進地研修や外部講師招聘など専門教科の充実を図り，農業への関心を高める。 （７）実習ノートを活用し，実習科目の充実を図る	評価指標の達成度 （１）研究成果を校外にて報告　３研究 （２）校外研修への参加　年間３回 （３）学校開放講座参加者の満足度 93.3% （４）農業技術検定合格率 45.2% （５）学校農業クラブでの成果 県予選入賞3 （６）地域と連携した取組の推進 年間72回 （７）授業に対する生徒の満足度 95.8% 活動計画の実施状況 （１）-1他校と連携し，未利用農産物から防災を意識した商品を生産した。 （１）-2環境保全・地産地消等，農林業を学ぶ日々の学習活動の実践からエシカルについて発信することができた。 （２）農業指導の技術向上に努めるため，先進地研修や講習会に参加した。 （３）生徒が日頃の学習成果を披露する場となり，自己肯定感が高まった。 （４）補習計画を立て全農業教員が指導にあたった。合格者数は前年度に比べ増加した。 （５）意見，プロジェクト発表ともに県優秀賞。測量競技では県予選会場校として運営に尽力した。 （６）年間72回地域や大学等と連携・協働した取組を実施することができた。 （７）実習内容と自己評価を記入することで，態度や行動力の向上が見られた。	評定 B B B C B A A	総合評価 B 先進地研修や現場実習を推進することで，先端技術に触れる多くの機会を得ることができ，高度な技能を身に付けることができた。 地域産業，特色を活かした農業教育の取組を展開し，地域・企業・校種間と連携した取組を行う中で，豊かな人間性や社会性を高めることができた。また，達成感や自己肯定感を得る機会を通して，他の学習活動や学校生活に積極的に取組む姿勢が養われた。 さらに，地域の課題解決に向けた取組・研究は生徒の思考力・判断力・表現力の育成につながった。	○今後も継続した指導をお願いしたい。 ○地域や異校種間の連携は，新聞等のメディアで報道されており，生徒が頑張っている姿よく解る。今後も継続してほしい。 ○農業技術検定の合格率を上げるよう，継続して取り組んでほしい。	生徒の課題・地域の課題を常に把握し，その解決を目指す取組を充実させることが，本校農業教育の活性化につながると捉え，現在の取組を継続，深化させたい。 そのためには，関係団体との連携をさらに深め，地域の教育資源を有効に活用することが望まれる。 さらに，上記の取組を遂行することで，学校の存在価値・生徒の学習価値を高め，生徒の進路へとつなげていくことが重要である。 教職員が協力して常に教育活動の充実・改善を図り地域・保護者・生徒から信頼され，地域に根ざした学校づくりを推進し，県内外から選択される魅力ある学校を実現するよう努めていく。

【備考　総合評価における「評定」の基準】Ａ：十分達成できた。　Ｂ：概ね達成できた。　Ｃ：達成できなかった。

令和元年度　学校評価総括評価表

徳島県立池田高等学校三好高等学校　２－Ⅴ・Ⅵ　（人権教育課）

自　己　評　価						学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　価			学校関係者の意見	今後の改善方策
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
人権意識の高揚	（全校レベル） （１）同和問題を中核に据え，様々な人権問題の学習をすることで，差別や人権問題の解決に主体的に取り組む生徒を育てる。 （２）ホームルーム活動を通じ，学年やホームルームの枠を超えた仲間づくりを目指す。 （３）日々の生活や研修等を通じ，教職員の人権意識を高めていく。 （下位組織レベル） （１）人権教育ホームルーム活動の内容や授業方法の充実を図る。 （２）「学校人権の日」の取組や内容の充実を図る。 （３）主体的に考え，行動できるような活動を増やす。 （４）人権教育教職員研修の充実を図る。特に若い先生への研修を充実させる。 （５）自尊感情や自己肯定感を育む授業をし，正しい職業観を身につけたり，いじめなどを防止する。	（１）同和問題についての学習を各学年で年間１回以上実施。	（１）各学年で１回以上はできた。３学年は３回実施	A	B ・ 本年度，新しい試みとして，人権コンサートを実施した。人権コンサートや人権映画などでは意欲的に鑑賞し，興味をもって臨んでいる。感想や反応はよい。しかし，その後の自分自身の生活に生かせてないことが多い。学習したことが実生活の中で行動力として表れるようにしなければいけない。 ホームルーム活動は，各学年・各ホームルーム，生徒の実態などに合わせて指導案を作成している。研修や各大会で得た情報をもとに，毎回作り変えていく必要がある。	○人権意識の高揚を図り，社会人としての資質を高める指導をお願いしたい。 ○人権コンサートや映画鑑賞では，感想も書かせていると思うので，夏休みの作文等とあわせ，人権委員にまとめさせ，簡単な人権新聞を発行してはどうか。 ○社会的に人権に対する「知ること」の必要性には十分対応できているのではないか。 ○「理解してもできない」事については日常の生活の中で，何が悪いのか，何が必要なのか理解しておく必要があるので，難しいと思うが心がけることが大切だと思う。	①限られた時間の中で，多くの問題に触れていく。ＳＯＧＩｓやハラスメントなど，比較的新しい人権問題なども学習に入れていく。 ②生徒の生活力の向上を目指した人権教育を行う。特別な時に，特別な形で人権学習を行うのではなく，普段の学校生活すべてにおいて人権意識が向上する教育を実践していく。
		（２）学年（１・２組）合同のホームルーム活動を各学年で年１回実施。	（２）各学年で１回以上はできた。２学年は２回実施した。	A			
		（３）活動的な人権ホームルームを各学年２回以上実施。	（３）各学年，毎回，グループ活動などを取り入れた学習活動ができた。	A			
		（４）新規の人権ホームルーム指導案作成１つ以上。	（４）各学年，毎回，新しい指導案を作成できた。	A			
		（５）教職員人権教育研修会年２回以上。	（５）年２回実施した。	A			
		（６）人権新聞の発刊　年３回以上。	（６）発行できていない。	C			
		活動計画	活動計画の実施状況				
		（１）学校の活動内容や生徒の実態に合わせた内容で同和問題を学習し，主体的に考えさせる活動を取り入れる。 （２）人権教育課とホームルーム担任との連携で教材を作成する。 （３）グループワークやロールプレイングなど活動的な内容を取り入れた人権ホームルームを行う。視覚的教材も充実させる。 （４）各研究大会や主事研修会などの内容をまとめ，教職員の教材研究に役立ててもらう。 （５）最新の情報の収集に努める。 （６）毎日の生活にある人権問題について提議し，身近な問題について考えさせる。	（１）１学年「なぜ人権問題を学習するのか」２年「命をいただく」３学年「就職差別」「結婚差別」という課題の中で取り上げた。 （２）合同で行うことにより，ホームルームを解体しての人間関係構築を狙った。 （３）様々な方法を取り入れ，生徒が考える時間を多く設けた。また視覚的な資料を用いて授業をした。 （４）指導案の作成時にアドバイスし，最新の情報を作成に生かしてもらっている。 （５）研修会などに積極的に参加した。 （６）人権新聞は発行できなかったが，人権映画や人権コンサートで啓発をしてきた。また主事自身が授業を実施した。				

備考　総合評価における「評定」の基準】Ａ：十分達成できた。　Ｂ：概ね達成できた。　Ｃ：今後の努力が必要

令和元年度　学校評価総括評価表

徳島県立池田高等学校三好校　４－Ⅰ　（企画・総務課）

自　己　評　価						学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　価			学校関係者の意見	今後の改善方策
開かれた学校づくりの推進	（全校レベル） （１）教育活動の公開及び情報発信により本校教育への理解と関心を高める。 （下位組織レベル） （１）幼小中学校へ情報発信（異校種間連携）を行う。 （２）地域社会との連携による諸行事に参加し学校の活性化に取り組む。 （３）学校Webページを活用し魅力情報の発信に努める。 （４）ＰＴＡ活動の活性化に取り組む。	評価指標 （１）学校Webページの情報発信状況　年間100回以上 （２）本校行事等に対する報道機関等の取材回数　25回以上 （３）学校開放講座の参加者の満足度　100% （４）保護者の学校行事等への参加状況　年間100人以上 活動計画 （１）各分掌担当者との連携を図る。 （２）-1幼稚園，小学校に食農教育の教材の提供を行う。 （２）-2地域のイベント等に参加し，本校教育を広く広報する。 （３）体験入学，開放講座などを実施して　本校教育への理解を図る。 （４）役員会等の活性化を図り，行事への　参加者増加を進める。	評価指標の達成度 （１）学校Webページの情報発信状況　年間116回 （２）本校行事等に対する報道機関等の取材回数　新聞報道のみ13回 （３）学校開放講座の参加者の満足度　93.3% （４）保護者の学校行事等への参加状況　年間89人 活動の成果・課題 （１）ＰＴＡ役員会での熱心な協議を経て，学校祭・体育祭等の各種行事の活性化につなげることができた。 （２）-1 幼稚園・小学校での食育教育，農場を開放しての野菜・果樹の収穫体験など異校種との連携活動は学習意欲の向上と社会性の醸成につながった （２）-2地域のイベント等に積極的に参加し，販売･展示等をとおして本校教育活動を広報することができた。 （３）中学生体験入学を２回，開放講座を５日間実施し，生徒の教育活動の広報につなげることができた。 （４）役員はもとより，多くの保護者の方にご協力頂き，行事の活性化につなげることができた。	評定 A B B B	総合評価 B 専門高校の特性を活かした地域連携活動など，新聞，テレビなど，メディアで多く取り上げられた。特別活動や講演会，校外研修などホームページで報告する行事も沢山あり，本校の活動を十分に発信することができた。 また，PTA役員をはじめ，保護者の方々の熱心な取組により，学校祭・体育祭など充実した学校行事が開催できた。	○地域から必要とされる校風の醸成を継続してください。 ○地域社会との共存という取組が浸透し，地域での三好校の存在が大きくなってきている。 ○次年度の課題と今後の改善策の実現を望む。	保護者の総会や研修会への出席率を上げるだけでなく，生徒関連の講演会等にも広く参加を呼びかけ，本校教育活動への理解を深めていただくことで，協力体制の更なる構築を図る。 保護者・地元の方々との交流・報道等をとおして，本校の教育内容を広く広報するとともに，池田高校本校・辻校・三好校の特徴を活かした連携活動を推進していく。

【備考　総合評価における「評定」の基準】Ａ：十分達成できた。　Ｂ：概ね達成できた。　Ｃ：今後の努力が必要

令和元年度　学校評価総括評価表

徳島県立池田高等学校三好校　５－Ｉ　（働き方改革）

自己評価						学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			学校関係者の意見	今後の改善方策
働き方改革	（全校レベル） （１）業務の適正化と持続可能な学校作り （下位組織レベル） （１）業務改善の推進 （２）外部人材の活用 （３）保護者・地域への理解促進	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	○夢と希望が語られる職場作りに努めて頂きたい。 ○先生方の共助により，十分な休暇の取得が可能となるようお願いしたい。	○引き続き年休所得５日以上，夏休の完全消化を推奨する。 ○出退勤システムを活用し，１ヶ月の残業時間４５時間以下，年間３６０時間以下となるように推奨する。 ○外部機関，外部人材を活用し教職員の負担軽減に努める。 ○過度な負担を抱える教職員へのサポート体制を構築する。 ○学校図書館司書，進路事務等を確保することにより，教員の負担を軽減する。 ○「土曜授業」等による代休取得率を100%とする。 ○留守番電話を設置し，教職員の負担軽減につなげる。
		（１）有給休暇５日以上取得　100% 夏休５日取得　100%	(1)有給休暇５日以上取得　82.6% 夏休５日取得　78.3%	C	B （所見） 再編統合後の教職員の減少により，教職員一人一人にかかる負担は大きくなっている。校務分掌の再編や副担任の職務内容の見直し等行ったが，十分な成果を得るまでには至っていない。 特に本年度は，成績不振の生徒，不登校生徒，支援を要する生徒等への指導が増加しており，担任をはじめ教職員の負担が大きくなった。巡回相談員，県や市の専門機関と連携し，また活用することで担当教員の負担軽減に努めたが，過度な負担を抱える教職員へのサポート体制を構築する必要がある。 また，本校生徒の多くは就職希望のため，指導に当たる教員は，夏季休業中の夏休，年休が取得しにくい状況である。しかしながら指導の効果は大きく，ほとんどの生徒は内定を頂いた。	
		（２）会議の精選	(2)昨年度とほぼ同数	B			
		（３）ノー部活デーの設定 原則：毎週日曜日，第1水曜日	(3)日曜日の活動はほぼ無かったが，水曜日の活動は徹底できなかった。	B			
		（４）外部人材の活用 林業教育他２科目で実施	(4)外部人材の活用は１科目のみであった。	B			
		（５）教職員数の確保 学校図書館司書，進路事務等を確保することにより教員の負担を軽減する	(5)年度内に司書採用に至らなかった。	C			
		活動計画	活動計画の実施状況				
		（１）管理職による休暇取得状況の把握。 （２）会議を精選し，時間短縮に努める。 （３）管理職による実態把握とノー部活デーの推進 （４）外部人材を有効に活用することにより，教員の負担軽減に努める。 （５）ハローワーク等を活用し求人を行う。	(1)休暇取得状況を総務事務システムにより確認することで,休暇取得を奨励した。 (2)会議は必要最低限に留めたが，実施回数を縮減するまでには至らなかった。 (3)体育部に関しては，競技の特性，生徒の実態，大会等により，徹底することができなかった。 (4)県の事業に応募することにより，外部人材の活用に努めたが，外部人材の活用に至ったのは１科目のみであった。 (5)司書の採用に関しては，ハローワークを活用し採用に努めたが，応募者がおらず，一部教員の負担が大きくなった。				

【備考　総合評価における「評定」の基準】Ａ：十分達成できた。　Ｂ：概ね達成できた。　Ｃ：達成できなかった。